



子育てに寄り添う島を目指して



1年間に対馬で生まれる子どもの数は約130人。この島で健やかに育ってほしいと思うのは、全ての島民の願いではないでしょうか。一方、人口減少や高齢化の波が押し寄せる対馬で、子育てをするには大変な場面も多くなってきました。どうすれば、子どもたちが健やかに育つ島にすることができるのでしょうか。市や地域の皆さんの取り組みを紹介します。

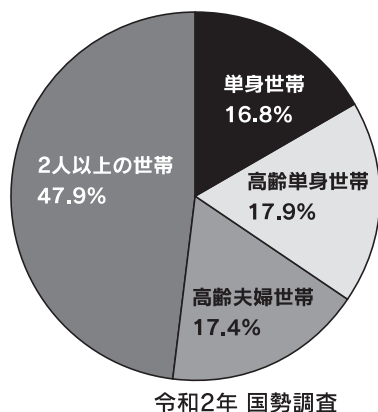
こそだ 「孤育て」を知っていますか？

核家族化や、地域の人たちとの関わりが薄くなった現代において、親族の協力が得られず、近所との付き合いもない中で子どもを育てている状態を「孤育て」と呼びます。育児の責任を母親や父親ひとりで背負い込み、子どもの世話に追われて、外出はもちろん、身だしなみなど、日々の暮らしにも支障が出る状態が続くと、心身の不調をきたすだけでなく、子どもへの虐待など、大きな問題に発展する可能性があります。



対馬が孤育ての島になる可能性も

対馬市の世帯比率



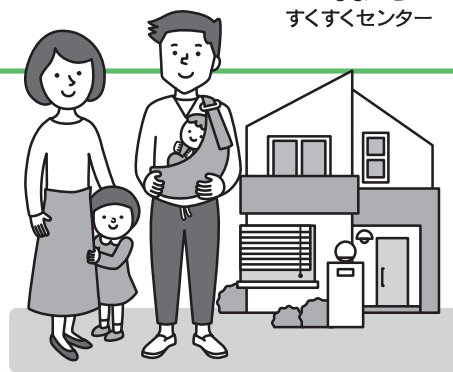
人口減少や高齢化が進む対馬では、これまでのように、同じ家に暮らす複数の大人が関わって子育てを行うことが難しくなっています。令和2年の調査を元にとすると、約1万3千世帯のうち、一人暮らしや高齢の夫婦だけの世帯は半数以上にのぼります。家の中に子どもがおらず、直接子育てに関わることもない世帯が増えることは、社会と、子育てに携わる人たちとの接点がなくなることを意味しています。子どもを抱えたお母さんやお父さんを孤立させないためにも、住民一人一人が関わった新たな仕組みづくりと行動が求められます。

妊娠から出産、子育てまでを地域全体でサポートする

国は、子どもや若者の権利が保障され、健やかな成長を社会全体で後押しすることで、将来にわたって幸せに生活できる社会を目指す「子どもまんか社会」の実現にむけ様々な施策を行っています。その中で、医療機関や子育て支援施設、行政や民営の支援拠点など、子育てに関わる部署が協力して支援する体制を、地域単位で作ることが求められており、対馬市では令和3年4月に子育て世代包括支援センター「つしまっこすくすくセンター」を立ち上げました。センターに所属する保健師、栄養士、その他の職種が関わって子育てを行う一人一人に寄り添った、切れ目のない細やかな支援を目指して活動を行っています。



つしまっこ
すくすくセンター



取り組みの一部を紹介します！



妊娠がわかったけれど、
これからどうしたら
いいの？

病院で妊娠の診断を受けると、妊娠届出書をも
らった後、妊娠届を市に提出します。その際、渡さ
れるのが、母子健康手帳です。対馬市では、母子健康手帳を
交付する際には、今後の健診や手続きなどに関する説明にく
わえて保健師、栄養士や歯科衛生士など専門の職員がチーム
を組んで、妊娠中の過ごし方やこれからの食事のこと、お口
のケアなど、1時間ほどかけて、より細かな説明を行うように
しています。



母子健康手帳だけでなく、
妊娠中の過ごし方や夫婦で
できる歯科検診の案内な
どが配られる

つしまこすくすくセンターでは、
妊娠前から妊娠、出産、子育て期の中
で関わる機会を最大限活用し、支援
につながる取り組みを行っています。



初めての母子手帳交付を受けるご夫婦。
「これからどうしていいか不安だったが、丁寧
に説明してもらい不安な気持ちが和らいだ」と
話していました。

子どもの成長で
気になることが
あるけど、
どうしたらいいの？



健診をきっかけに、相談の機会を作る

赤ちゃんが生まれたら、保健師がご自宅
に伺う新生児訪問をはじめ、5歳児まで定期
的に健診があります。対馬市では、法律で
決められた1歳6か月児健康診査と3歳児健
康診査の間に独自に2歳児の歯の健診事業に
取り組んでいます。成長の変化が大きいこ
の時期に、発達の具合や子育ての疑問など
にお答えすることで、保護者の方に安心して
子育てに取り組んでもらいたいと考えてい
ます。また、市内5か所にある地域子育て
支援センターでは、同年代のお子さんと触
れ合う機会づくりや、育児への相談などを
気軽に行うことができます。



地域子育て支援センター



急な用事の時に子どもの迎えや
預かりをお願いしたいけれど...

市内には、家事や育児を支援する取り組みを行っている事業者や団体が
あり、有償で保育施設などから自宅への送迎や、通院やリフレッシュのた
めの一時預かりなど、子育てのお手伝いを行っています。お手伝いして
いるのは、講習を受けた市内在住の人たちで、子育てに関わる新しい形
として注目されています。

活動の内容は次ページで詳しくお伝えします。

親でも学校の先生でもない、子どもを育てる新たな立ち位置

令和5年度に誕生した「つしまファミリーサポートセンター」は、子ども（生後4か月から小学校6年生まで）の育児支援を希望する人と、援助を行いたい人をつなぐ取り組みです。令和7年2月現在で、依頼会員55人、援助会員47人、両方会員（依頼も援助も行う）14人が登録しています。



どんなことをサポートしてもらっているの？

つしまファミリーサポートセンターで多い依頼内容

- 1位 学校の放課後の子どもの送迎および預かり
- 2位 保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの送迎および預かり
- 3位 依頼会員宅での預かり（依頼会員在宅時）



つしまファミリーサポートセンターの情報はこちら

※1時間当たりの利用料金

	午前6時～午前7時	午前7時～午後7時	午後7時～午後10時
平日	800円	700円	800円
土・日・祝日・年末年始	900円	800円	900円

※複数の子どもを預ける場合は、2人目から半額

利用料金はどのくらいかかるの？

※送迎（1回200円）おやつ代など実費負担



どんな人が来るのか心配...

援助会員は登録後、支援の仕方や安全、小児看護に関することなどを学ぶ講習を受ける必要があります。また、依頼者からサポートの依頼があった場合、センターの窓口だけでなく、援助会員も、サポートをする保護者や子どもたちと面談し、信頼関係を築いたうえでサポートを行っています。



サポート会員
平山明美さん

子育て経験者として応援します！

定年に対馬に帰ってきたとき、サポート会員を募集していることを知り、会員になりました。保育施設でも働いた経験もあり、子どものお世話をするのは慣れていましたが、ここでは1人の子どもさんのお世話をすることが多いので、私のことを慣れてくれるのがとても不安でした。初めての依頼が終わった時、ホッとしたと同時に、困っている人の役に立つことができた嬉しさはとても大きかったです。仕事と子育ての両立は大変です。更に転勤などで両親をはじめ家族の協力が得られないとなれば、本当に心細くて不安だと思います。そんな時は、どうか私たちを頼ってください。皆さんの頑張りを対馬に住む仲間として、応援しています。



講習の様子

対馬市では、部局内の連携のほか各機関や市民と協力しながら、子どもを産み育てる皆さんのお手伝いを行っています。相談はもちろん、皆さんが抱えているお悩みなどがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

健康増進課

☎0920(58)1116

美津島（小船越～濃部）豊玉・峰・上県（鹿見・久原・女連）

北地区保健センター

☎0920(84)2313

上県（鹿見・久原・女連以外）・上対馬

南地区保健センター

☎0920(52)4888

美津島（根緒～大山）・厳原

※令和7年4月から北地区保健センターが健康増進課に統合されます。